

# 知的障害特別支援学校小学部における 教育課程編成上の課題について

— 3 群での比較を通して —

○佐藤 麗奈  
(練馬区立光が丘春の風小学校)

今枝 史雄  
(大阪教育大学)

烏雲畢力格  
(株) ココロ発達療育センター)

菅野 敦  
(東京学芸大学)

KEY WORDS: 知的障害特別支援学校 教育課程 課題

## I. はじめに

2017 年 4 月に特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(以下,新学習指導要領)が告示された。改訂のポイントは、「社会に開かれた教育課程の実現, 育成を目指す資質・能力, 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善, 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立」「障害の重度・重複化, 多様化への対応と卒業後の自立と社会参加に向けた充実」などである(文部科学省,2017;2019)。また、「特別の教科 道徳」が設定された。知的障害特別支援学校においても、各教科別の指導が 3 つの育成すべき資質・能力に合わせて目標が設定されるなどの変化が見られた。知的障害特別支援学校では、中学部や高等部と比較して、小学部は重度知的障害のある児童が多く在籍しているため(全国特別支援学校知的障害教育校長会,2019)、小学部では新学習指導要領に応じた教育課程を編成していく上で、様々な課題を抱えていることが予想される。また、新学習指導要領では教科別の指導が整理され、「学びの連続性を重視した対応」が求められているため、教科別の指導がこれまでより重視されている傾向がある。そのため、合わせた指導を重視している学校と教科別の指導を重視している学校では、教育課程を編成していく上での課題も異なることが考えられる。

以上より、本研究では、全国の知的障害特別支援学校小学部の教育課程編成上の課題について、合わせた指導を重視している学校と教科指導を重視している学校それぞれの課題の特徴を明らかにすることを目的とする。

## II. 方法

**1. 調査対象:** 全国の知的障害部門を有する特別支援学校小学部 570 校であった。**2. 調査項目:** 教育課程の課題を問うた。「①学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程編成の仕方がわからない(以下,学習指導要領)」「②教科別の指導の編成の仕方が難しい(以下,教科別の指導)」「③自立活動をどのように組み立てたらよいかわからない(以下,自立活動)」「④道徳をどのように実施したらよいかわからない(以下,道徳)」「⑤各教科等を合わせた指導の編成の方法が難しい(以下,合わせた指導)」「⑥年間指導計画の立案が難しい(以下,年間指導計画)」「⑦その他」「⑧特に課題なし」の 8 項目を設定した。「⑧特に課題なし」以外の項目は複数選択可とした。**3. 調査方法:** 調査用紙は郵送による送付・回収を行った。回答は、教育課程に詳しい教職員に依頼した。**4. 調査期間:** 2018 年の 1 月～ 2 月。**5. 回収率:** 53.5%(305 校)。**6. 手続き:** (1)分析対象: 調査項目について記入不備のない 286 校を分析対象とした。(2)分析: 「特に課題なし」と答えた学校を除き(53 校: 18.5%)、教育課程編成上の課題の選択率を算出した。選択率は「課題を選択した学校数/「特に課題なし」と答えた学校を除いた分析対象校」で求めた。次に、各学校の教科・領域等の年間授業時間数に対する合わせた指導の年間授業時間数の割合を算出し、平均値(SD)0.54(±0.17)より合わせた指導の割合が 1 SD 以上の学校を「合わせた指導重視群(N=26)」、1 SD～1 SD の学

校を「平均群(N=180)」、-1 SD 以下の学校を「教科別指導重視群(N=19)」として、群ごとの教育課程編成上の課題を比較した。**7. 倫理的配慮:** 調査対象校に、書面にてプライバシー保護を説明し、同意を得た場合のみ、調査を実施した。

## III. 結果

3 群ごとの課題の選択率を算出した結果を図 1 に示す。

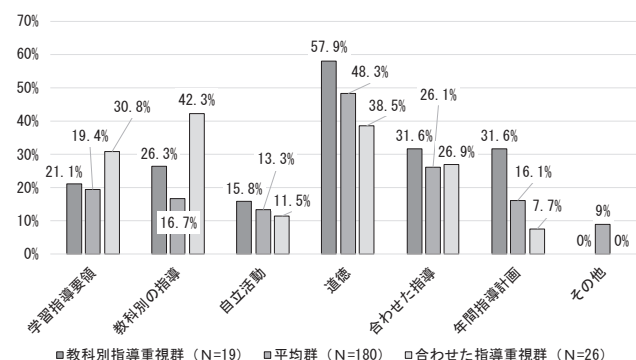


図 1 教育課程編成上の課題 3 群別 選択率

図より、教科別指導重視群は他の群と比較して「年間指導計画」の選択率が高かった。合わせた指導重視群は他の群と比較して「学習指導要領」「教科別の指導」の選択率が高かった。さらに、教科別指導重視群と平均群では、「道徳」の選択率が最も高く、合わせた指導重視群においても「教科別の指導」に次いで「道徳」の選択率が高かった。

## IV. 考察

合わせた指導重視群は、新学習指導要領を受け、「教科別の指導」の選択率が比較的高かった。各教科等を合わせた指導について、福岡教育連盟(2017)は、「各教科の内容も同時に整理し、横断的に指導計画を評価し、改善に努める必要がある」としている。一方で、菅野ら(2018)は、各教科等を合わせた指導の学習内容は、教科別の内容に基づいた設定がほとんどされていない実態を明らかにしている。そのため、各教科等を合わせた指導と教科別の指導との関連について課題を抱えている様子が伺える。

教科別指導重視群では、「年間指導計画」の選択率が高い傾向があり、年間指導計画に各教科の内容を系統的に位置付けることについて課題を抱えている様子が伺える。新学習指導要領では、「学びの連続性を重視した対応」が掲げられ、各教科の教育内容は段階ごとに充実が図られているため、今後は教科別の指導に基づく年間指導計画の作成方法を検討していく必要がある。さらに、教科別指導重視群では、「道徳」の選択率も高いことから、各教科等合わせた指導としてではなく、「特別の教科 道徳」として教育課程上に位置付けることを課題としていと考えられる。

今後の課題として、新学習指導要領の実施にかかり、こうした課題について各学校がどのように対応しているか調査する必要があると考える。

(SATO Rena, IMAEDA Fumio, Oyonbleg, KANNO Atsushi)